

# 「楽曲の特徴や演奏のよさを理解し味わって聴く」活動への一考察

## ～鑑賞指導における「言葉で表す」事例を通して～

江 田 司

本研究では、歌曲「待ちぼうけ」（北原白秋作詞／山田耕筰作曲）5連の詩朗読や演奏の聴き比べ、楽譜をもとにした楽曲の構造理解や演奏表現の工夫を考えるなどの活動を通して、詩の内容と曲想の変化を速度や強弱との関わりから感じ取りながら味わって聴く態度を身に付けるようにした。さらに、小学校学習指導要領の鑑賞指導事項ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」へのアプローチから、「味わって聴く」「思いや意図をもって表現する」子どもが育つことをめざした。

キーワード：歌曲「待ちぼうけ」、題材「詩と音楽を味わおう」、比べる、言語活動、思いや意図

### 1. 研究の目的

本研究の目的は、「歌詞」「演奏」「楽曲の構造」をさまざまな言語活動によって比べることを通して、曲のまとまりに気を付けて音楽を味わったり、表現したりする態度を身に付けさせることである。

本研究で明らかにしたい内容は、歌曲において作詞者、作曲者、演奏者たちの楽曲に対する工夫と聴く者の役割、またそれぞれの関係性から楽曲に味わいが生まれていることを子どもたちに理解させる点にある。

### 2. 研究方法

思いや意図をもって主体的に表現できる子どもを育てることをめざして、これまでの研究成果\*1を生かし、表現や鑑賞の活動を通して音楽作品に内在するさまざまな要素を比べて捉えさせることから始める。

#### 2. 1. 詩と音楽の関わりを捉える

「待ちぼうけ」（北原白秋）の歌詞から詩の表現内容を知るようにする。次にプロの俳優（楠正道）\*2による朗読の工夫を聴き取る（言語活動1／ワークシートへ傍線記入・記入例を比較する）活動を行い、歌詞の意味を音声で表すときにさまざまな表現の仕方があることを感じ取らせる。KG社教科書鑑賞用CD（平野忠彦）\*3から音楽の特徴を感じ取って聴き、歌えるようにする（聴唱）。

次に、歌曲「待ちぼうけ」（加賀清孝独唱）\*4を鑑賞し、歌い方のさまざまな工夫を感じ取るようにする（言語活動2／表現の工夫を聴き取りワークシートへ○印と言葉を記入・意見交流）。

#### 2. 2. 楽譜を用いて詩と音楽の関わりを考える

歌詞内容を感じながら歌わせるとともに、楽譜を見て作曲者の工夫を考えさせる（ハ長調に移調された教科

書楽譜を扱う。〔共通事項〕旋律、フレーズ、反復、音符、休符などに着目させる）。作曲家山田耕筰自身が作った2種類の楽譜「待ちぼうけ」（速度表示と強弱記号が大きく異なる2つの版）\*5を比べ、同じ楽曲であってもそれぞれに表現の違いがあることを感じ取らせる。

#### 2. 3. 「思いや意図」を伝えて、ゲストティチャー（プロの独唱者と伴奏者）の演奏で聴き比べる

プロのバリトン歌手とピアニスト\*6に自分たちの思いや意図を伝えて（主に速度を変化させて）歌ってもらい、表現の違いや工夫を感じ取って聴く（CDの演奏との表現の違い／発表／自分たちが意図したことへの評価など）を行わせる。詩と音楽が一体となった曲想を味わいながら聴き、作詞者、作曲者、演奏者そして聴く者（聴衆）の関係を考えさせる（言語活動3／感想文「この学習で学んだこと」を書く）。

### 3. 事例

ここでは、平成24年10月に和歌山大学教育学部附属小学校5年生で行った題材「詩と音楽を味わおう」について報告する\*7。（なお、題材の評価規準、題材の計画等の詳細については同「教育研究発表会」要旨及び当日資料を参照のこと）

#### 3. 1. 題材設定の理由

歌曲「待ちぼうけ」（北原白秋作詞／山田耕筰作曲）5連の詩を朗読や鑑賞での聴き比べ、根拠をもった表現を考えるなどの活動を通して、詩の内容と曲想の変化を、速度や強弱との関わりで感じ取りながら、楽曲や演奏のよさを味わって聴く態度を身に付けるようにする。

本題材では、まず鑑賞の活動を通して楽曲の構造を読み解くことにせまる。思いや意図をもって表現するためには、歌詞や楽譜からさまざまな工夫を読み取る

態度を身に付けることが大切だと考えるからである。また「詩と音楽を味わう」ためには、作詞者、作曲者、演奏者、聴者が互いに関わり合いながらそれぞれの役割を果たしていることにも気付かせたい。

「待ちぼうけ」の鑑賞指導にあたっては、子どもたちの曲への興味・関心や、本学習への意欲を増すため、詩の音読とプロの俳優による詩の朗読を比べる活動から始める。言葉1つ1つのリズムやテンポや強弱など表現の違いを、ワークシートを活用しつつ感じ取らせるようにする。歌詞唱できるようにしたあと音楽を聴いて表現の工夫を見つける活動へと展開する。ここでは詩の朗読で工夫した点を見つける活動が生かされるものとする。

次に、聴くばかりでなく強弱記号が付された楽譜を見て、作曲者が工夫しているところを見つける。再度音楽を聴いて、作曲者の工夫を演奏者がどのように表現しているかを詩の内容とともに味わって聴く。まとめとしては、違う演奏で比較聴取したり実際に演奏家を招いたりして、詩と音楽が結びつくことで多様な表現を可能にしていることに気付かせる。本題材の目標は「詩と音楽が一体となって生み出される日本の歌曲の美しさや味わいを感じ取るようにする」とした。

### 3. 1. 1. 歌曲「待ちぼうけ」について (分析)

歌詞「待ちぼうけ」は、[machibouke]と表されるように、わずか5文字のなかに[aiueo]の母音がすべて登場する。色彩感あふれる言葉といえる。2回くり返されたあと「ある日せつせと[auieeo]」も5種類の母音が続く。昼の明るさが決定されたかのように感じられる。

さて、歌曲「待ちぼうけ」であるが、楽譜にはさまざまな版:ヴァージョン(4系列)があり、教科書(教育芸術社版)では、その第3系列(1991年春秋社発行『山田耕筰 作品全集 第7巻(独唱曲3)』)が使われている。詳しい内容は省くが、他の系列との決定的な違いは、テンポ(4分音符=100が132となっている)と強弱記号(真逆の部分が多々ある)、伴奏譜のアーティキュレーション(和音構成や音符の長さなども微妙に違う)にある。いずれも作曲者本人の校訂を経たものと考えられる所から、「子ども向け」あるいは「歌曲としての扱い」など、その折々の状況(背景)によって変化したものと考えられる。演奏もさまざままで、テンポを変化させたり強弱を変化させたりしているものが多い。適宜、いろいろな系列の楽譜を表現内容に応じて使っているようである。ところが伴奏については、冒頭の第1小節から判断すると、ほとんどが第3系列の伴奏譜(スラーがかかりすべてレガート)が使われているのも興味深い。

歌曲「待ちぼうけ」は、5番までの歌詞がユーモラスに展開し、子どもが親しみやすい曲となっている。また、心地よい音数律(七五調=3+4/5など)で詩

ができてるところから、朗読の活動にも適している。曲はわずか8小節であるが反復(模倣)や休符の扱いによるフレーズの統一感がある。3度音程の多用や、曲の終わり方を半終止にしていることで「中国風」な感じを醸し出している。また曲の冒頭では“待ちぼうけ”の「け」を2分音符で延ばし、その旋律が2度くり返されている。続く各2小節フレーズの終わりも2分音符で統一されている。ここからも待ちぼうけを食わされている農夫の情景が想像できるなど、さまざまな工夫が凝らされている。

授業では、バージョンによって違う「強弱(記号)」が、実は「速度(テンポ)」設定に大きく支配されていることに気付かせたい。歌曲における鑑賞や音楽表現の活動は、詩の内容と曲想の変化との関わりをとらえるところから始まりそれらを味わうことに尽きると考える。

## 3. 2 主に使用した教材等

本題材で扱う鑑賞活動の対象は、朗読(楠正道)、演奏(平野忠彦、加賀清孝:いずれもバリトン独唱)、楽譜(KG社教科書の楽譜及び指導書の伴奏譜、日本歌曲全集の伴奏譜)、ゲストティチャー(バリトン独唱:OK氏、ピアノ伴奏:MA氏)である。

## 3. 3. 授業の実際

### 3. 3. 1. 比べて「違い」を見つけよう

(第1次:1/2時間)

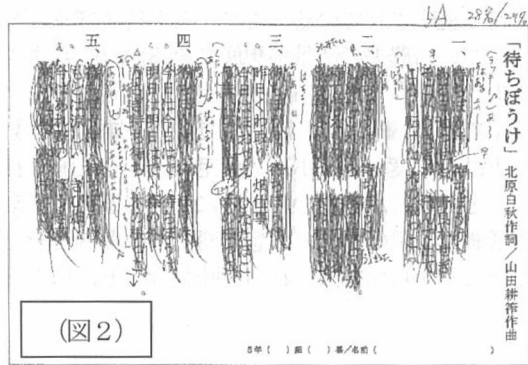
授業では、まず4時間を通した学習の主題を知らせた。さらに子どもたちの曲への興味・関心や本学習への意欲を高めるため、ワークシートの歌詞(図1)を使い「黙読→個人による音読→全員による音読→代表数名の音読」を経て、言葉のもつリズムや歌詞の内容をペアによる相談でつかませた。

五	四	三	二	一	「待ちぼうけ」 北京白秋作曲 / 山田耕筰作曲
案今も待 いはとち 北あはほ 風れ演い 野しけ 木のい の根ほま つきぼ こき煙う 草け	う明今待 さ日日ら ぎははほ 待明今う ち日日け 待はは ちでで待 ち森待ぼ ののちう 根外ぼう っけ	う今昨待 ま日日ち いほはく 切ほぼう りお取け かづり ぶえ 待 ち仕ぼう 木のな事う 根たけ っけ	う待し待 さてめち さばたば ぶえこう つかのか れはち待 木か寝ぼ ののけでう 根で待け っけ	こあるち ろへ日せう らうらせう たげたが 木の根 でせ	

(図1)

範唱CD(平野忠彦バリトン独唱)を聴き、模唱したしたあと、プロの俳優による詩の朗読と聴き比べる活動を行った。子どもたちは各連に共通する「まちぼうけ・まちぼうけ」「きのねっこ」や「うさぎ」など

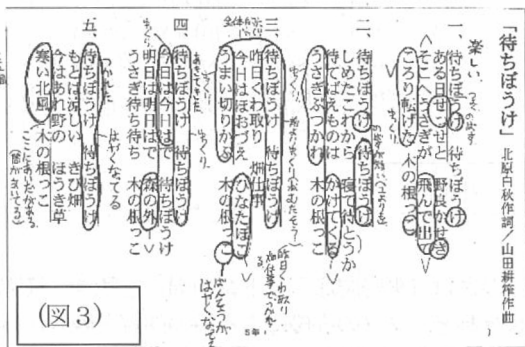
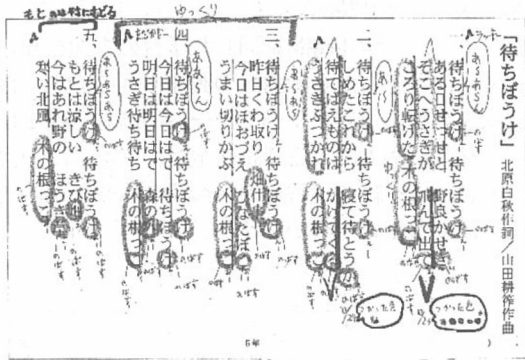
の言葉1つ1つの抑揚やリズム、テンポ、強弱など変化や表現の工夫に気が付き、ワークシートにこれらの部分にコメントは入れず傍線のみを入れた。(図2)は、傍線部をクラス分にまとめたものであるが、その濃淡によって、例えば、第3・4連の2~3行目にあまり朗読の変化がないと捉えるなど「偏り」を判断できた。



(図2)

### 3. 3. 2. 歌い方の工夫を聞き取ろう (第1次: 2/2時間)

歌詞唱できるようにしたあと、鑑賞用CDを使い音楽を聴いて表現を工夫しているところを見つける活動へと展開した。ここでは詩の朗読で工夫した点を見つける活動(ワークシート)を発展させた。演奏は、歌詞の強調があり3~4番が遅いもの(加賀清孝)を使い、歌い方が工夫されていると思ったところに○印と簡単なコメントを入れさせた(記入2例: 図3)。



(図3)

テンポの変化(速・速・遅・遅・速)は全員が捉え

られており、各連の5行目のアゴーギグ(リタルダント)や、歌詞の各音を微妙な強弱により強調する工夫も聞き取れていた。さらにこの段階で各文節の終わりが延ばされていることや伴奏の音色や速度の変化等まで言及している子どもがいた。

### 3. 3. 3. 楽譜から曲の構造を知る (第2次: 1/2時間)

次に、聴くばかりでなく、強弱記号が付された楽譜を見て、作曲者が工夫しているところを見つけさせた。再度音楽を聴いて、作曲者が工夫しているところを演奏者がどのように表現しているか、詩の内容とともに味わって聴かせた。子どもたちが楽譜を見て気付いた点(図4)は、



(図4)

①冒頭「まちぼうけ」の同型反復(模倣) / もしこれを同型反復で上下にしたら楽曲の気分がガラリと変化することを実際に音にして比較聴取させた。②2分音符が5箇所扱われている / これらを8分音符に変え比較。③3. 4. 5小節目冒頭に8分休符がある / これをなくし4分音符で比較。④最後が「ミ」で終止していない / 「ド」にして比較。中国風である。⑤「ソ」の音が多い。等々であった。

### 3. 3. 4. ゲストを招いて表現の多様性を知る (第2次: 2/2時間)

まとめとして実際に演奏家を招き、詩と音楽が結びつくことで多様な表現を可能にしていることに気付かせた。

歌曲「待ちぼうけ」には2つのテンポ設定(100と132)があり、それぞれの強弱記号も多くは真逆になっている。これらを歌い分けて頂くことから始め、前時からの課題「こう演奏してもらいたい」希望をまとめたところ、CDでの演奏とは逆に「遅・遅・速・速・遅」となった。演奏家たちはこの要望に即座に対応して演奏した。驚くほど表現がぴったりはまっていくことに聴く子どもたちは驚きを隠せなかった。(図5)



(図5)

山田耕筈氏の歌曲の特徴や伴奏の工夫などの話を伺

ったあと、感想用の「学習カード」を配付し、「今日学んだこと」を書かせた。当然、ヒントは「詩をつくる人、曲をつくる人、演奏する人、聴く人」として、それぞれの関わりにも言及するように求めた。(図6)

#### 「学習カード」への記入例 (図6)

タイトル (テーマ) 「詩と音楽を味わおう！」

《例1》

「132」と「100」を反対にしたときに、歌う前は変になるかと思ったけど、歌ってもらって、反対にしても、変にならなかったの、ビックリしました。5番が少し悲しいようにするには、4番を遅くすればいいんだなと思いました。またテンポを変えて、5番を少し悲しいような感じにしてみたいです。(後略)

《例2》

OK先生が歌ってくれた132と100がいれかわった曲は、最初はあまり合わないと思ったけど、やっぱりプロの人が歌うと、強弱記号があるところもちゃんとされていて、132のところの「畑仕事」がちゃんと働いているような感じになった。(後略)

#### 4. 事例の考察

①詳しく楽曲分析をすることで、題材全体の構想や評価などの組立ができた。本題材「詩と音楽を味わおう」では北原白秋／山田耕筰のコンビによる歌曲を扱ったが、詩、音楽、演奏それぞれにスポットを当て、「比べる」をキーワードに子どもたちの活動を仕組んだ。具体的には「図2」「図3」に見られるように「違い」や「変化」を言葉などで表すことによって、教室の仲間たちと共有し学習内容を確かなものとした。

②鑑賞の指導事項ウ「楽曲の特徴やよさの理解」は、指導事項イ「楽曲の構造の理解」からア「曲想やその変化を感じ取って聴く」ことを通して生まれる。すなわち、指導事項ウは単独で存在しない。具体的には「図4」によって構造の理解を示した。このことがさらに深く聴く活動を可能にした。ICT環境の整備とともに、ワークシートの活用、あるいは子どもたちの考えがどのように発展・展開してきているかを見取る手立てとしてコピー機を利用し、新旧ワークシートの比較評価を行ったことも効果を得た。

③【共通事項】と関わらせて鑑賞の活動を行う方法を明らかにしようと、速度、強弱、反復、音符・休符などを「比較」によって扱った。「図6」のように、速度と強弱の関係を表現の工夫と関わらせて捉えていた。

④「図1～4、6」は、言語活動と関わらせて楽曲への理解や聴く力を付ける方法を明らかにした例であるが、3つのステップ「歌詞の理解と表現上の比較→演奏の理解と比較→楽譜の理解と比較」を用意して楽曲の特徴を捉えさせ、「図5」のゲスト招聘は、曲への「思

いや意図」を生み出すことへと繋がったと考えられる。これは比較としてゲストを招かなかった学級や、楽譜の理解の前にゲスト招聘した学級では期待した反応が得られなかったことから明らかになった。

#### 5. 成果と課題

##### 5.1. 成果

(ア)朗読を聴きながら、「工夫しているな」と思ったところ(縦書き歌詞)に傍線を引かせたが、文字を書き入れない約束をすることで活動が容易になり、また傍線の集中度・分散度が分かるように学級分まとめて提示したことで、仲間と共に学習する関心や意欲が高まった。【言葉などで表す例1として】

(イ)創造性が発揮されるように、縦書き歌詞のワークシートを1回限りのものとし、指示する記入方法を工夫することで「(歌詞朗読を)初めて聴いた自分」と「(歌唱表現から)感じたことや気付いたことをさらに深めて聴き取った自分」とを比べさせることができた。【言葉などで表す例2として】

(ウ)「音楽づくり(旋律づくり)」の活動で培った【共通事項】(「音楽の仕組み」：反復・変化、「音楽を特徴付けている要素」：旋律の音の動き、リズムや強弱、音符・休符など)への理解を生かそうと考えたが、楽譜を読み取る活動で指導者の予想をはるかに超えたさまざまな発見がなされた。

(エ)鑑賞の活動において、「これができていけばよし」という見極めが明確になるような評価の方法や吟味の場を用意することを考え、拡大提示装置などICT環境を活用したが、学級の全員が評価規準に照らして「概ね満足」を超える結果となった。

##### 5.2. 課題

個々人に生まれたたくさんの「感じ方や気付き」を、学級全員のものにするためこれらを「写す」ことを随所に取り入れた。時間的な制約があるため題材後半では多少希薄になったことから、今後は計画的にこの活動を行いたい。

##### 参考文献等

\*<sup>1</sup>本題材以前において、子どもたちは旋律づくりや歌の曲の分析など楽譜の見方を経験してきた。

\*<sup>2</sup>昭和60年代に6年生鑑賞用レコード(教芸/コロンビア)に収録されていた朗読

\*<sup>3</sup>平成17年度～教科書「小学校の音楽5」(教育芸術社)鑑賞CDに収録された演奏

\*<sup>4</sup>平成23年度～同鑑賞CDに収録された演奏

\*<sup>5</sup>ここでは、教育芸術社版と音楽之友社版を使用。

\*<sup>6</sup>バリトン：大元和憲氏、ピアノ：宮井愛子氏

\*<sup>7</sup>和歌山大学教育学部附属小学校・平成24年度教育研究発表会『要旨』及び当日資料『音楽科学習指導案』